

1. 第16回技術講習会を開催しました。

2年に一度開催しています技術講習会も第16回を迎えました。参加者のアンケートにも、「今後も継続して欲しい」というご要望もあり、心強く思いを新たにすることができました。今後も、中部地質調査業協会さんのご協賛を頂きながら、「継続こそ力なり」を今後も実践して継続して参りたいと思います。

今回の話題提供は、東北大震災を経験したことで、この東海地域に切迫していると考えられる「南海トラフ大地震による広域災害」について研究されている杉戸真太先生をお迎えして、最新の情報をご紹介して頂きました。併せて、皆様の交通機関を考慮して、名古屋駅周辺での開催として、名進研ホールで開催となりました。

講演会の後、観光バス2台で、中部土質試験協同組合まで移動し、見学会を開催しました。見学は1時間と限定されていることから、20分のサイクルタイムで、3回転とした見学及び試験の実技解説を行いました。なお、移動中には、地盤材料試験に関連するDVDを観賞しました(1号車では調子が悪く、復路で続きを観賞)。



写真-1.1 ご講演中の杉戸真太先生

(1) 第16回 技術講習会の開催仕様 (主催：中部土質試験協同組合 協賛：中部地質調査業協会)

- ① 開催日：平成26年11月19日(水) (講演会：13:00~15:00 移動 見学会：15:50~16:50)
- ② 場所：講演会：名進研ホール(3F) 見学会：ジオ・ラボ中部の試験所
- ③ 講師：岐阜大学理事・副学長 杉戸 真太教授(写真1.1)
- ④ 演題：『迫り来る海溝型巨大地震に対しての土木の備え』
- ⑤ 講習会申込：163名(官公庁他：149名, 組合員・準組合員4名+顧問・理事他10名)。
実質参加者：145名(官公庁：131名, 組合員・準組合員4名+顧問・理事他10名)。
- ⑥ 土質試験見学会参加者：申込79名(見学会実質参加者：71名(官公庁のみ))。内訳は表1.1をご参照下さい。

表 1.1 参加者内訳(申込と実質参加者)

種別	中央官庁	地方自治体								政府系 会社	協会会員	大学	理事会・委員 協会理事	合計
		愛知県	市町村	三重県	市町村	岐阜県	市町村	静岡県	市町村					
講演会	13	69	38	10	1	9	0	4	0	5	4	0	10	163
見学会	2	39	13	9	1	8	0	3	0	4	0	0	4	83

(実際の参加者)

種別	中央官庁	地方自治体								政府系 会社	協会会員	大学	理事会・委員 協会理事	合計
		愛知県	市町村	三重県	市町村	岐阜県	市町村	静岡県	市町村					
講演会	10	64	31	9	1	9	0	4	0	3	4	0	10	145
見学会	1	36	11	8	1	8	0	3	0	3	0	0	4	75



写真-1.2 講演会での質疑応答時間(植下先生からのコメント)

(2) 開催概要とご講演概要

1) 開催状況・講演要旨

名進研ホールは、225名収容可能ですが、2/3の席が埋まった状況で、大変多くのご参加をいただきました。ご講演は、48枚のPPTで構成されていましたが、その他に最近の知見としてGEONET(国土地理院のGPSデータ)を利用した地盤変動から「地震の予兆」を把握する試みも紹介され、大変興味深い内容のご講演でした。

東北地方太平洋沖地震による東北地域の地震動の特徴とは、なんといっても数分にもおよぶ長い強震動の継続時間です。これを受けて、東海地域の土木技術者が対峙している南海トラフ巨大地震による各地の強震動の特徴とそれによる被害の特徴について解説していただきました。主たる内容は以下のような構成でした。

(主たるご講演内容)

- ① 想定地震とは？
- ② 何故“迫り来る”と言えるのか？
- ③ 東海地域での地震動のレベル、特徴は？
- ④ 長い継続時間の強震動による被害の特徴は？
- ⑤ 重要構造物の耐震性検討事例
- ⑥ 一般市民の危機意識は？
- ⑦ その他

2) 想定地震(東北地方太平洋沖地震の地震動を受けての南海トラフ巨大地震)

1. 想定地震とは？

東北地方太平洋沖地震を受けての南海トラフの想定地震の見直し



1. 想定地震とは？

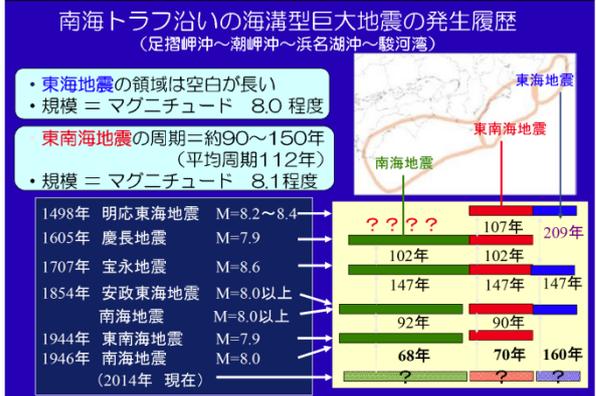


- ① 東北地方太平洋沖地震は、M=9.0とされている。最近では、マグニチュードは断層の大きさに応じて決定されることとなったことから、本震後に多く発生する余震分布から本震の断層範囲が大きくなり、3月13日にM=9.0と決められた。
- ② 東北地方太平洋沖地震の震源域=450×150km、断層面のずれ=25~30m(max)とされている。これに対して、この地域で3連動の地震となると、震源域=750×250km、断層のずれは数10mとなる推定されている。
- ③ 上記の規模の地震として、東海地域では1707年の宝永地震が相当し、この時のマグニチュードはM=8.6とされているが、現在の決め方ではM=9.3~9.4にもなるかもしれないとされている。

3) 何故“迫り来る”と言えるのか？

- ① 東海地域では、室町時代から5回の巨大地震が繰返し発生している。
- ② 安政東海地震では、東南海・東海連動地震発生後、32時間後に南海地震が発生している。100年程度のオーダーでみると、この地震も連動していると考えることが適切といえる。
- ③ 右のPPTによると、東海地域では連動地震を考える必要があり、東北の地震を考慮に入れると、3連動を考える必要があると指摘された。
- ④ 連動を考慮すると、東海地域では地震の継続時間が非常に長くなる。
- ⑤ こうした地震は、繰返し発生している期間を考慮すると、将来30年間の発生確率=70~80%と考えられることとなる。

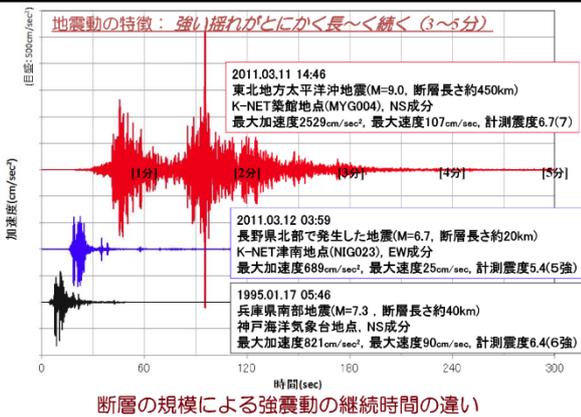
2. 何故“迫り来る”と言えるのか？



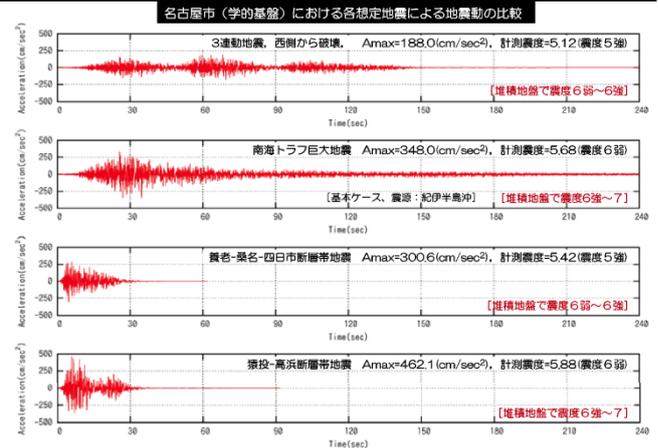
4) 東海地域での地震動のレベル、特徴は？

- ① 下の左の PPT は、X-軸が 300sec(5min)で、Y-軸の一つのメモリが 500 ガルで、最大加速度=2,529 ガル(仙台北部-築館)の波形を示す。計測震度=6.7 であり、震度=7(計測震度 \geq 6.5)となるとの解説でした。また、この波形によると、複数の地震の連動であることを示している。
- ② 黒で示された波形は、阪神大震災での神戸海洋気象台の 821 ガル、計測震度=6.4 の記録です(もう少しで震度階が 7 になる記録)。
- ③ 名古屋市における地震動のレベルの予測が、下右の PPT に示す。発生する地震の順番によっても変化するが、90~150 sec は地震動が継続することが判る。この時の堆積地盤での震度=6 弱~7 が予測されている。ただ、各地域の地震動が反射してくることから、実際の地震動は更に長くなる。

3. 東海地域での地震動のレベル、特徴は？



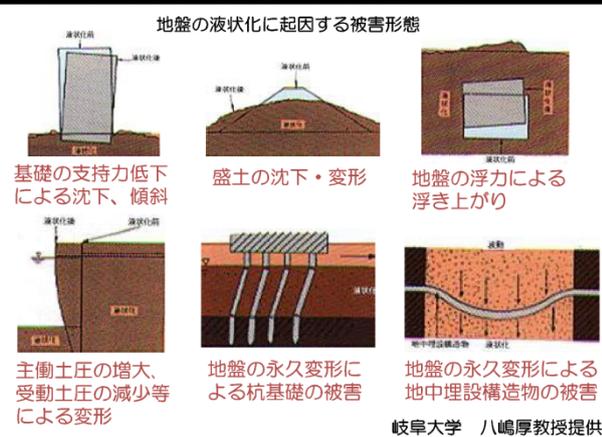
3. 東海地域での地震動のレベル、特徴は？



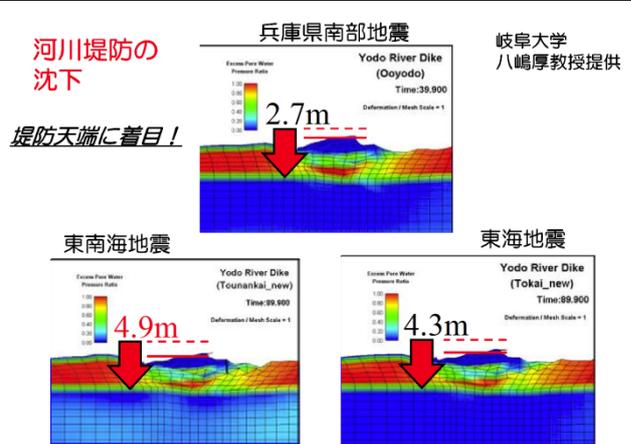
5) 長い継続時間の強震動による被害の特徴は？

- ① 想定されている南海トラフ大地震では、数回の大きな揺れが発生することから、これを考慮した液状化に起因する被害の形態が想定されている(下左 PPT, 岐阜大_八嶋先生)。
- ② 特に河川堤防の沈下については、阪神大震災では 2.7m の沈下に対して、東南海地震では 4.9m の沈下が発生するとの検討結果が出されている(下右 PPT, 岐阜大_八嶋先生)。

4. 長い継続時間の強震動による被害の特徴は？



4. 長い継続時間の強震動による被害の特徴は？



6) その他

土木学会誌 2012 年 3 月号に、「震災を踏まえた技術者への提言」のなかで、「提言 1 地殻変動にみる 3.11 巨大地震の予兆」(神山 眞, 杉戸真太, 久世益光)として、非常に興味深い提言がなされている。GEONET のデータから地殻変動を検討され、この結果を紹介されました。事前配付のプリントには抄録されていないことから、ご興味のある方は、上記の土木学会誌をご参照下さい。

土木学会誌の pp.122~123 には、3 日ほど前から明確な予兆が存在していると強調されている。また、地震工学分野でも多くの目で予兆を見逃さない努力が求められていると提言されている。

当日出席できなかった組合員・準組合員・その他の皆さまに、大変貴重なご講演を限定された内容を数頁で整理することは困難ですが、内容の一端をご一読いただければ幸いです。

(3) 見学会開催状況報告

1) 見学会のサイクルタイム

A 班の出席率が非常に良く、欠席者なしでした。次いで B 班(2 名欠席), C 班 20 名(6 名欠席)の参加状況で、合計 71 名でした。

第16回技術講習会 試験所見学サイクルタイム

(青字:主たる解説者)

開始 終了	A 班(27名)		B 班(24名)		C 班(20名)	
	見学内容	説明者	見学内容	説明者	見学内容	説明者
15:50 - 16:10	● 抜き出し, 物理試験 ● 圧密	・加藤・石原 ・伊藤・清水 ・岩田	● 力学試験 ・静的試験(一軸, 三軸) ・動的試験	・池田, 松村 ・久保, 池田	● 材料試験 ● 岩石試験	・小倉, 江上 ・梅田
	・試料抜き出し ・土粒子密度, 含水比, 粒度, 液性・塑性限界 ・多段階圧密試験, 定ひずみ圧密試験		・一軸圧縮, 三軸圧縮試験 ・動的試験(詳細ニューマークD法適用試験も解説)		・締固め・CBR, 大型三軸試験 ・岩石試験	
16:10 - 16:30	● 力学試験 ・静的試験(一軸, 三軸) ・動的試験	・池田, 松村 ・久保, 池田	● 材料試験 ● 岩石試験	・小倉, 江上 ・梅田	● 抜き出し, 物理試験 ● 圧密	・加藤・石原 ・伊藤・清水 ・岩田
	・一軸圧縮, 三軸圧縮試験 ・動的試験(詳細ニューマークD法適用試験も解説)		・締固め・CBR, 大型三軸試験 ・岩石試験		・試料抜き出し ・土粒子密度, 含水比, 粒度, 液性・塑性限界 ・多段階圧密試験, 定ひずみ圧密試験	
16:30 - 16:50	● 材料試験 ● 岩石試験	・小倉, 江上 ・梅田	● 抜き出し, 物理試験 ● 圧密	・加藤・石原 ・伊藤・清水 ・岩田	● 力学試験 ・静的試験(一軸, 三軸) ・動的試験	・池田, 松村 ・久保, 池田
	・締固め・CBR, 大型三軸試験 ・岩石試験		・試料抜き出し ・土粒子密度, 含水比, 粒度, 液性・塑性限界 ・多段階圧密試験, 定ひずみ圧密試験		・一軸圧縮, 三軸圧縮試験 ・動的試験(詳細ニューマークD法適用試験も解説)	
16:50-16:55 閉会挨拶 教育情報委員会 大石委員長						

2) 見学会開催状況



(抜き出し状況の解説: 伊藤職員)



(冷凍試料の成形状況: 加藤次長, 伊藤職員)



(物理試験(ふるい試験)の解説: 加藤次長)



(静的三軸試験の解説: 池田係長)



(動的試験の解説：久保部長)



(CBR 試験の解説：小倉課長)



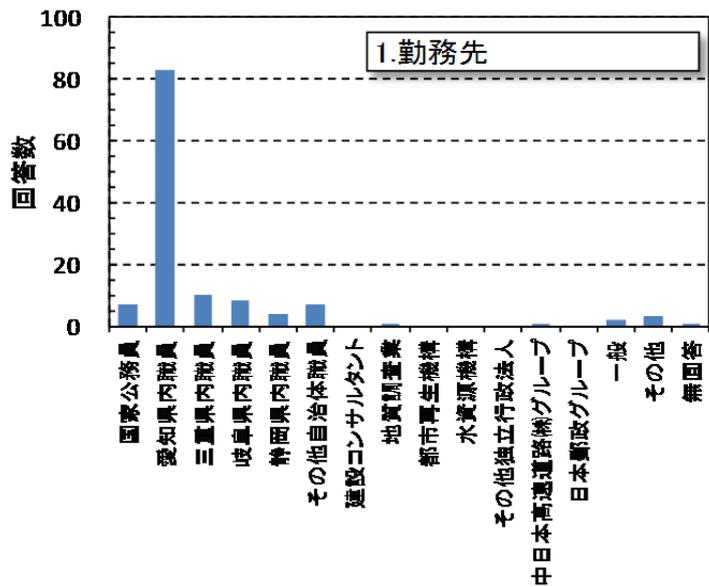
(圧密試験の解説：岩田主任)



(岩石試験の解説：梅田部長)

3) アンケート結果

- ① 愛知県職員が多かった。一方、中部地方整備局の職員が例年より少数であった。これは、杉戸先生が、以前に、中部地整職員対象にご講演されていたことも関連すると推定している。
- ② 静岡県から 4 名の参加があり、ジオ・ラボネットワークの PR を希望されていたのが印象的。
- ③ 土質試験の見学については、大学で履修したものは不要との意見もあったが、体験されていない方も多くの参加があり、復習という意味でも全体を見学して頂いた。
- ④ 配付した資料のコピー配付を希望されている参加者もおられましたので、何らかの方法でコピー配付の了解をお伝えしたいと考えています。



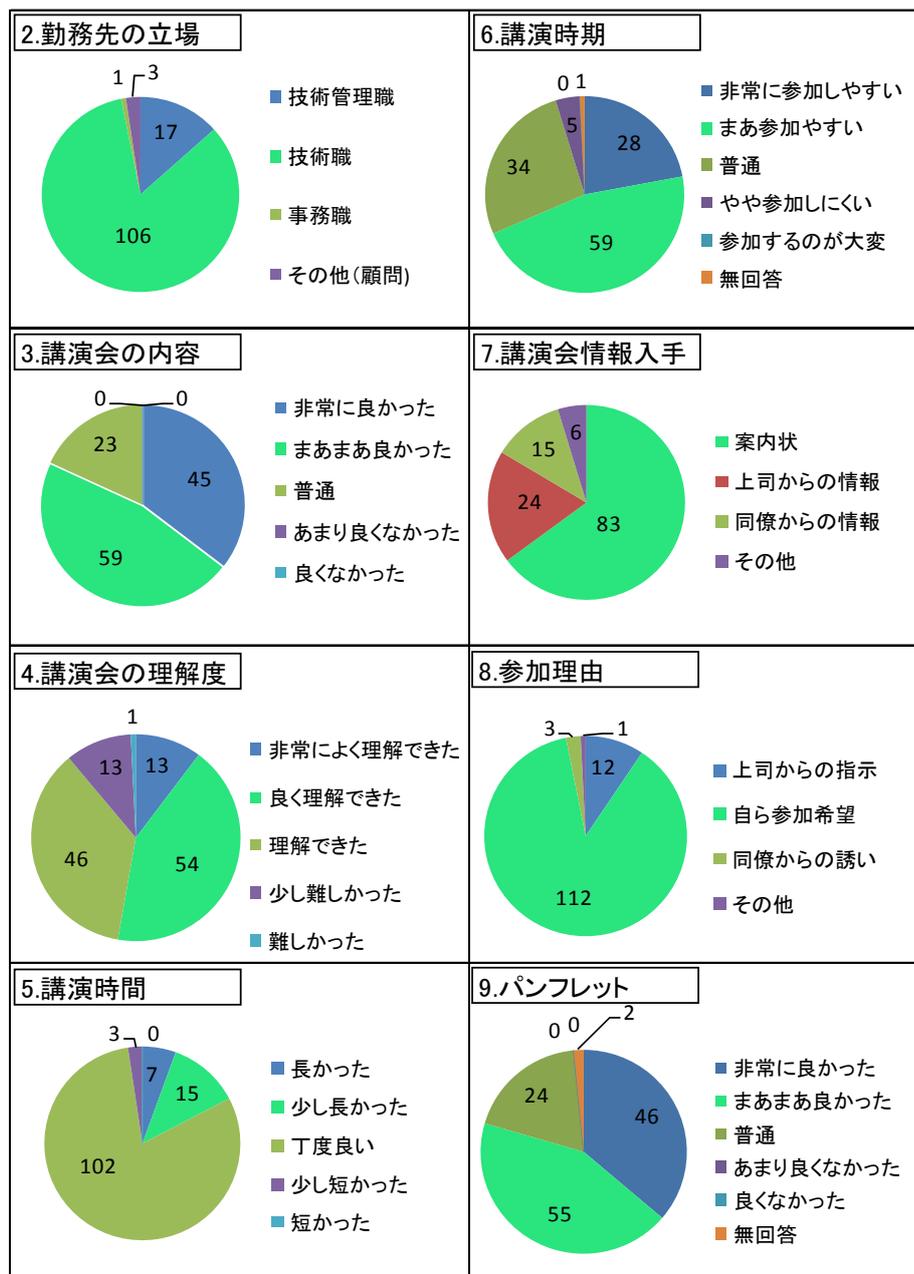
(講演会+見学会参加者の内訳)

- ⑤ アンケート結果について、主要項目を 5 段階評価を採用し、100 点を満点として項目別に評価を行った。
 - ・講演会の内容、パンフレットが 83.5 点と高い評価が得られている。(パンフは、組合の最新版パンフレット、地盤材料試験を有効に活用するための 2 冊を配付した)
 - ・講演時期は 11 月開催したことが評価されたものと考えている。
 - ・講演会の理解度も 70 点を確保できた。難解な内容を易しく解説いただいた杉戸先生のご尽力の賜と考えられる。

(主要項目における評価点)

種別	評価点
3.講演会の内容	83.5
4.講演会の理解度	70.2
6.講演時期	76.9
9.パンフレット	83.5

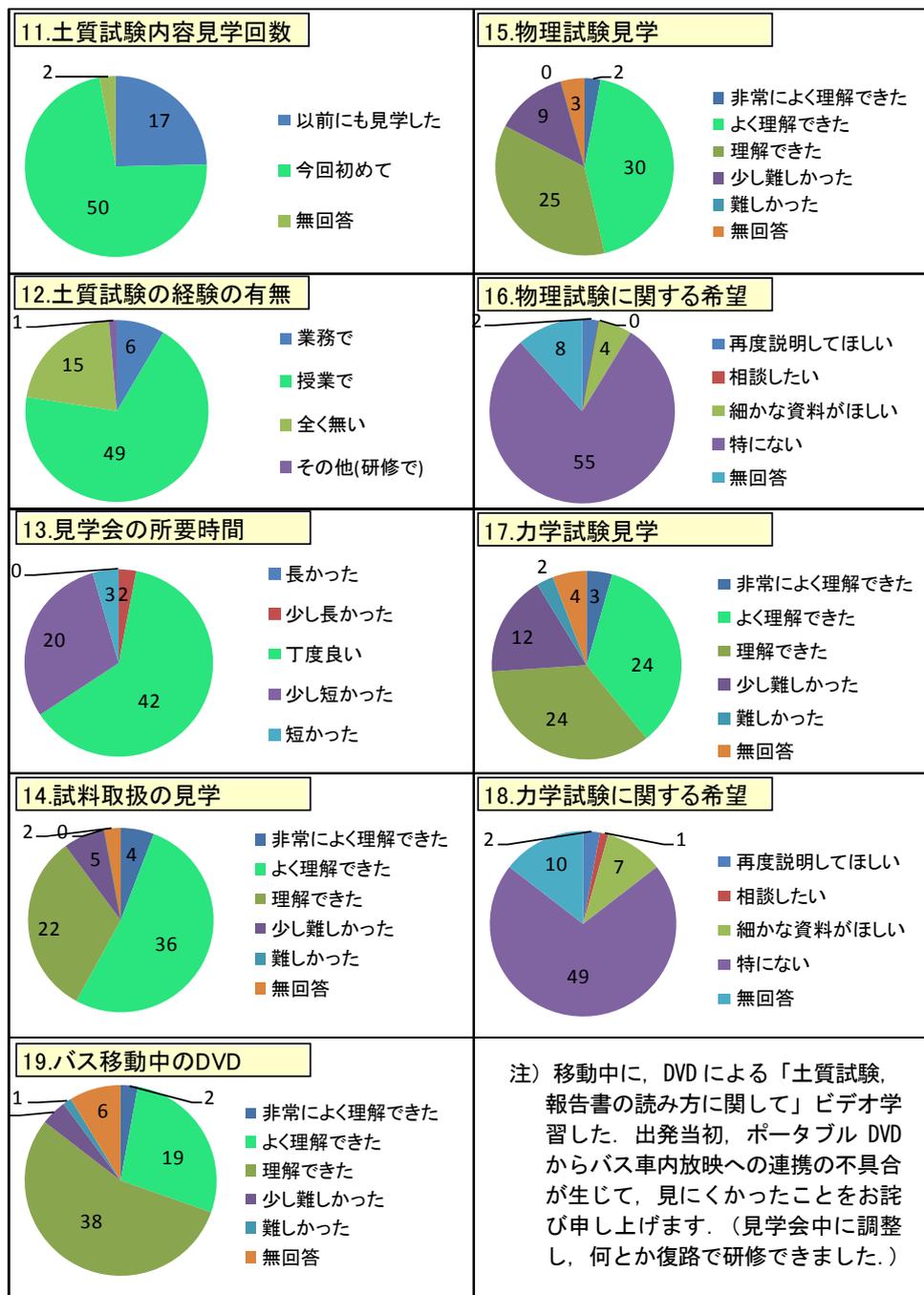
(講演会に対するアンケート結果(127名の回答))



(講演会に関するアンケートによるご意見)

<p>●今後聞きたい内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広島災害・南木曾における土石流対策(ハード・ソフト面) ・豪雨による地すべり等災害の起こりやすい地域の地質特性 ・耐震対策工法の選定方法 ・東北の現場で起こった話
<p>●意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地すべり対策(土質調査・地質調査等)・地すべりの現状に対するソフト対策調査(避難指示等)が重要 ・今回の内容ならハザードマップを作製している防災系の部にも案内したら良いと思った ・適切な講演内容だった。今後も継続希望 ・パンフ(試験)を職場でコピー配布したいが良いか ・レジメP8「5重要～事例」のスペクトルグラフの右図について、赤文字と黒文字、引出線が同一線を指しているのを知りたい ・PPT資料内容が縮小しすぎていて見えないので、枚数が増えてもいいから見える資料を希望 ・本題(海溝型地震)について、低地の津波対策・住民の意識を高める事の必要性を感じた ・直下型(内陸型)地震に対する湾内の対策が知りたい ・ジオ・ラボネットワークを世に広めてほしい ・杉戸先生に続きを教えてください ・本題(「土木の備え」)より地震そのものの説明と建築・住民の話が7～8割だった
<p>●今後の留意点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スクリーンの写真撮影は禁止するか、講演者の許可が必要なのではないか ・マイクのボリュームが小さく、先生の講演内容が少し聞きとりにくかった(二人) ・PPグラフに赤色が多用されていたのでレーザーポインター色は赤以外を希望

(見学会に対するアンケート結果(69名の回答))



(見学会に関するアンケートによるご意見)

*車内DVDについては、中部地質調査業協会のビデオを貸し出すこととし、愛知県一宮建設事務所に送付。

<p>●土質試験に関する希望項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・液状化対策等の耐震対策の試験に興味があるので資料希望 ・重金属等の溶出試験 ・三軸試験を行う場合の砂礫土供試体の作成方法 ・物理試験・力学試験共ゆくり見せて欲しい ・物理・力学共細かな資料が欲しかったが、配布パンフでOKだった ・大学の授業で見たもの(土質工学・土質試験)は不要 ・最近の試験方法(自動化等)、砂の試料の冷凍、液状化試験は良かった ・見学会にもう少し時間をとってほしい (業務にご迷惑をおかけするのでなかなか難しいと思いますが…)
<p>●中部土質試験組合への要望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>ジオ・ラボネットワークをもっとPRしても良いのではないか(静岡県自治体職員)</u> ・静岡県は単独(グループ)なのか(静岡県自治体職員) ・車内DVDが良くできているので欲しい(一宮建設都市施設整備課/萩原崇資) ・大学での専攻が土木でなかったのも参考になった ・DVDの調子が悪く途中で停止(復路で再開)

2. ジオ・ラボネットワーク臨時懇談会について

- ・ 開催日：H26年10月23日(木)（翌日：中部地質調査業協会ミニ・フォーラム）
- ・ 開催場所：中部土質試験協同組合
- ・ 懇親会：新幹線口の風来坊(費用は全地連負担)
- ・ 議題
 - (1) 各協同組合のH26年度上期の運営状況について
 - (2) ジオ・ラボネットワークからの連絡事項について
 - 1) H26年度ジオ・ラボネットワーク経営者懇談会定例会議事録：事務局中山委員
 - 2) 補助金事業ジオ・ラボネットワーク技術研修会報告：関西 中山委員
 - 3) ジオ・ラボネットワークブース展示報告：事務局中山委員
 - 4) H26年度ジオ・ラボネットワーク技術者交流会報告：中部 坪田委員
 - 5) 得意試験者一覧：中部 坪田委員
 - 6) H27年度技術者交流会開催(案)：事務局中山委員
 - 7) H27年度技術研修会(案)：事務局中山委員
 - 8) 人事交流計画策定：事務局中山委員
 - 9) H27年度経営者懇談会臨時会(案)：北海道折笠委員
 - 10) 管理職研修会(案)：関西 中山委員
 - 11) 運営委員会委員の件：事務局中山委員
 - (3) 全地連からの連絡事項について
 - (4) その他
- ・ 議事結果
 - (1) 次年度より、ジオ・ラボネットワークの経営会議、臨時会議はジオ・ラボネットワーク事務局が主たる運営を行う。組織携帯は現状を維持するが、全地連はオブザーバー参加とする。
(6月定例会：全地連会議室、懇親会：全地連で準備)
 - (2) H27年度からは、関東土質試験協同組合が事務局を担当する。
 - (3) H27年度の臨時会議は北海道組合が創立50周年式典を開催することから、これに併せて開催する。
 - ・ 日程：H27年10月30日(金)13:00～16:00とし、記念式典：16:30～19:30
 - ・ 場所：京王プラザホテル札幌
 - (4) 運営委員会に北陸・森川専務理事を追加した。
 - (5) 管理職研修会(講師：関西：佐藤他)で、順次開催することとした。
 - (6) 各組合の得意試験技術者リストを完成し、ジオ・ラボネットワーク内での情報共有を促進することとし、リスト試案を会議に提出した。この資料については慎重に取り扱うこととした。
 - (7) 詳細ニューマークD法の試験技術に関する勉強会を開催することとし、11月初旬に中部から情報発信し、開催することとした(情報発信が遅れています)。
 - (8) 各組合からH26年度上期の経営状況が報告され、今年度も「ため池耐震調査」が発注されている。
 - (9) 当組合の試験室見学会では、「土質試験に各種の工夫がなされている」との嬉しい評価が得られた。



(各組合理事長・専務理事の見学会)



(臨時経営会議)

3. その他 各種見学会の実施報告

(1) 地盤工学会中部支部：10月25日(土) (一般市民参加者) 25名+ (見学会部員) 7名=32名

- ・主催：公益社団法人地盤工学会 中部支部 見学部会
- ・当組合での内容：組合の紹介，濃尾地盤の解説(坪田)，液状化試験(池田)，液状化の体験(加藤)

地盤工学会中部支部市民見学会スケジュール (組合編)

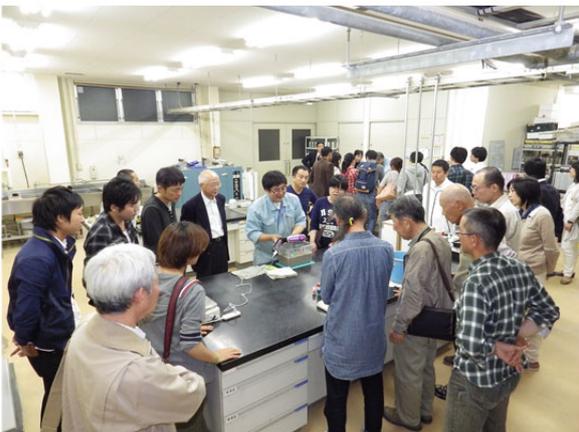
16:10~17:40 地盤材料試験編見学 (見学場所：中部土質試験協同組合)				
開始	終了	見学内容	説明者	場所
16:10	— 16:40	組合の紹介・濃尾地盤について	理事長 坪田邦治	会議室
		・組合の紹介 ・濃尾平野の地形，濃尾平野の地質，名古屋地盤の工学的性質，地盤災害など		
16:40	— 17:00	液状化試験・動的変形試験について	技術部係長 池田謙信	試験室
		・液状化の解説，試験方法，利用の仕方など		
17:00	— 17:20	液状化を体験する	技術部次長 加藤雅也・伊藤康弘	試験室
		・三河珪砂を利用して，液状化モデルを体験 ・寒天を利用した地形区分による家屋への影響，筋交いの有無の差を体験		
17:20	— 17:40	試験室を見学	技術部次長 加藤雅也	試験室
		・物理試験 ・力学試験などなど		
終了挨拶 (見学会会長：小倉さま)				



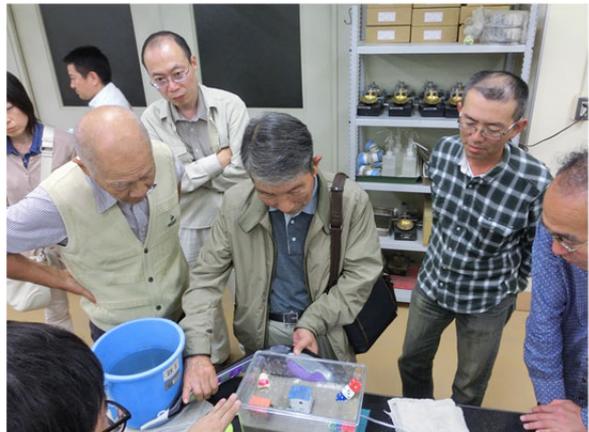
(液状化試験の解説：池田主任)



(寒天・ゼリーによる家屋の振動実験：加藤次長)



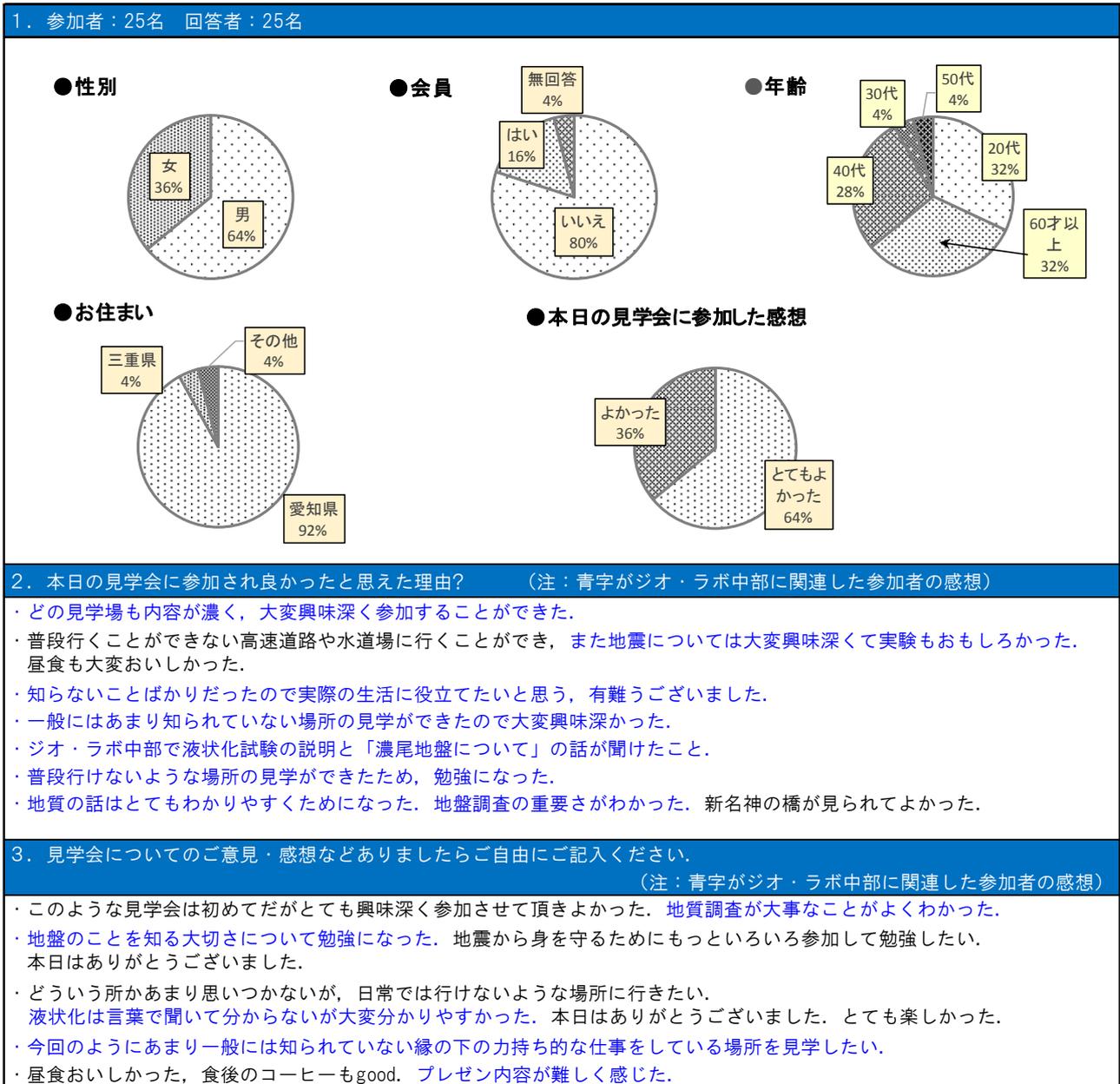
(液状化モデル実験：伊藤職員)



(液状化モデル実験を体験：参加者)

(参加者のアンケート結果 (当組合に関連するご意見を抜粋))

平成26年度 地盤工学会中部支部 『市民見学会』 参加者アンケート



(引用元：地盤工学会中部支部_見学部会資料)

(コラム) H26 年度に新設した試験機 -静的～動的三軸試験機が稼働中

(供試体直径 ϕ max=10cm までの静的・動的試験対応)



今回導入した試験機により、詳細ニューマーク D 法に対しても、供試体径 ϕ =10cm まで対応可能となり、試験範囲が広くなりフル稼働中です。主な特徴は以下の通りです。

- ・ 詳細ニューマーク D 法試験に対応
- ・ 供試体 (ϕ max=10cm, 高さ h =20cm)
- ・ 主な試験仕様
 - * 垂直載荷重: 20kN
 - * セル圧, 背圧: 1MN/m²

(参考)

本機には、供試体の V_p, V_s を測定できる装置も取付ける予定です。只今鋭意製作中です。(うう！ご期待)

(2) 中部地方整備局職員研修

- ・主 催：中部地方整備局 名古屋港湾空港技術調査事務所
- ・開催日：10月20日(月) (14:00～17:30)
- ・本研修は、2年に1回実施されている全体土木研修の一環として、地盤材料試験に関する単元を当組合が、以下のような内容で実施している。

地盤材料試験研修予定表

時 間	講習概要	講師
14:00 - 14:05	研修事務局ご挨拶	主催者代表：浅倉さま
14:05 - 15:00	土質試験概要研修(ビデオ講習含む)	(坪田)
(移 動)		
15:10 - 16:45	土質試験見学・実習	
15:10 - 15:50	試験実習(物理試験, 圧密試験)	(主担当:加藤)
15:50 - 16:30	試験実習(供試体作成～一軸試験, 三軸試験, 動的試験)	(主担当:池田)
16:30 - 16:45	試験実習(材料試験(締固め, CBR), 岩石試験, 大型三軸)	(主担当:小倉, 梅田)
(休 憩)		
16:50 - 17:25	土質定数の評価および設定における留意点	(坪田)
17:25 - 17:30	全体質疑応答～閉会挨拶	主催者代表：浅倉さま



(一軸供試体成形を体験：池田係長, 松村職員)



(供試体の湿潤密度を計測：池田係長)



(液性限界試験の研修：石原職員)



(粒度試験_フルイ試験の研修：加藤次長)

(研修担当者からの貴重なご意見)

- ・今回の研修生は、入省してまだ数年の職員が多く経験も少ないこともあり、土質試験を体験できたことは非常に有意義だったと感じております。
- ・講習も私自身も再度確認する良い機会となりました。
- ・次回(H28年度予定)も是非ともお願いしたいと考えておりますので、引き続き宜しくお願いします。

4. その他（組合のパンフレット、マウスパッドを更新しました）

平成16年6月に、現在の事務所に移転した際に組合のパンフレットを更新しました。その印刷部数がほぼ無くなりかけましたので、平成26年11月19日の第16回技術講習会で配付することを第1目標として、内容を一新しました。

「より良い社会をめざして」、当組合の使命を、以下の「**三つの技術の矢**」で表現しています。

「価値創造(Value creation)」、「技術力(Technological strength)」、「社会貢献(Contribution society)」

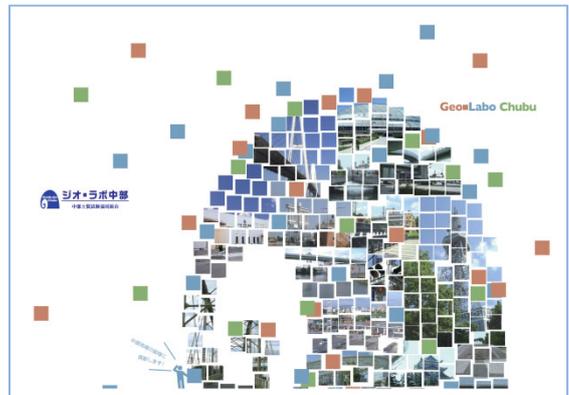
これらの項目に関連して、内容を記載して、地盤材料試験で活躍する「ジオ・ラボ中部」になっています。

また、「私たちの生活環境と深く関わる地盤材料試験」では、各種の社会資本における代表的な地盤材料試験を表現しました。この頁は、一般の方々にも、広くご理解が頂ける内容となっているものと自負できる内容です。

- 各代表的な試験設備では、当組合の保有・実施している試験機を紹介しながら、「概要」、「対象」、「求まる定数」、「備考」の項目毎に、試験を整理しています。
- 最後の、「安心・安全なより良い社会の実現」では、「皆さまとともに」、「国際社会のために」、「子供の未来のために」という視点から、内容を記載しました。これらは、今後10年程度は配付可能な内容となっているものと考えています。

（第16回技術講習会に向けて、マウスパッドも作成しました）

上記のパンフレット、このマウスパッドともに、業務多忙の中、岩田 暁 職員がデザイン・内容作成等を担当してくれました。ありがとうございました。このマウスパッドに関しては、今後機会のある毎に配付していく予定です。



（新パンフレットの表紙の見開き：当組合のマークを表現）



（当組合の自動圧密試験機をデザインしたマウスパッド）

中部地域の皆様に貢献する



ジオ・ラボ中部

中部土質試験協同組合

理事長：坪田邦治 技術顧問：植下 協(名古屋名誉教授)

〒463-0009 名古屋市守山区緑ヶ丘 804 番

TEL: 052-758-1500 FAX: 052-758-1503

e-mail: info@geolabo-chubu.com

URL: <http://www.geolabo-chubu.com>



（新設した静的～動的三軸試験機：ニューマークD法対応）

組合員(18社)	愛知県15社, 三重県2社, 静岡県1社			
㈱アオイテック	青葉工業	㈱アキラテルス	川崎地質	㈱基礎地盤コンサルタンツ
㈱キンキ地質センター	サンコーコンサルタント	㈱ダイヤコンサルタント	玉野総合コンサルタント	㈱中央開発
㈱東建ジオテック	東邦地水	㈱日さく	日特建設	㈱富士開発
松阪鑿泉	㈱明治コンサルタント	㈱中日本コンサルタント		
準組合員(15社)	愛知県11社, 三重県1社, 岐阜県1社, 静岡県2社			
㈱朝日土質設計コンサルタント	応用地質	㈱協和地研	㈱興亜開発	㈱シマダ技術コンサルタント
㈱地圏総合コンサルタント	㈱アサノ大成基礎エンジニアリング	㈱大和地質	㈱中部ウエルポーリング社	㈱東海環境エンジニア
東海ジオテック	㈱東京ソイルリサーチ	日本物理探査	㈱ヨコタテック	㈱フジヤマ